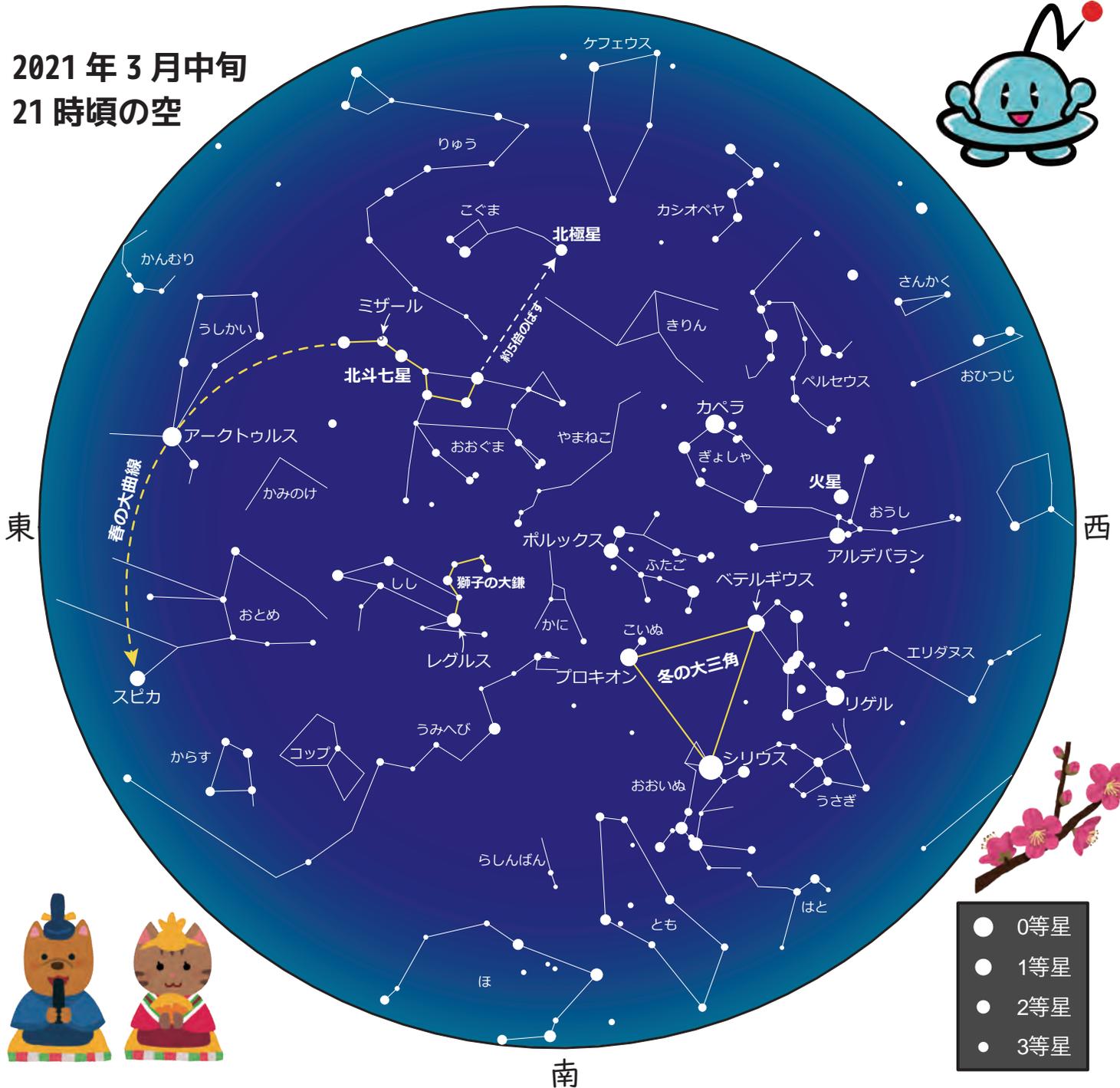


3月の星空案内

北

2021年3月中旬
21時頃の空



南

冬の寒さも和らぎ、野山に春の彩が目につくようになってきました。夜空を見上げれば、冬の星座たちは西の空に傾き、東から春の星座たちが昇っています。北東よりの空には春の代名詞ともいべき7つの星の並び**北斗七星**が見えています。北斗七星は美術界の巨匠ゴッホの「ローヌ川の星月夜」という作品にも描かれ、古今東西多くの人々に親しまれてきた存在です。ちなみに、北斗七星を形作る星のうち『**ミザール**』という星は約2等星なのですが、肉眼でよく観察するとすぐ横に『**アルコル**』という約4等星を見つけることができます。一説によると古代アラビアでは兵士の視力検査に用いられたと言われています。ミザールとアルコルが2つに分離して見えるか、皆さんもぜひチャレンジしてみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

■ 3月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
6日



新月
13日



上弦
21日



満月
29日

天体観望会で月が見えるおすすめ日時は？



3/20(土)・・・19時, 20時の回



3/27(土)・・・19時, 20時の回

水星：3月6日の夜明け前、東の空ごく低空で見える（西方最大離角）。【約0.2等】

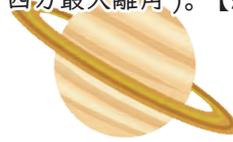
金星：太陽に近く観察は難しい（3月24日外合）。

火星：宵の口から西の空で見える。【約1.1等】

木星：夜明け前、東のごく低空で見える。5, 6日は水星と接近して見える。【約-2.0等】

土星：夜明け前、東のごく低空で見える。木星より先に昇る。【約0.7等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ6日の明るさ。



■ おすすめの観察対象など

【NGC2392 エスキモー星雲】

NGC2392（エスキモー星雲）はふたご座に位置する天体です。ふたご座はよく冬の星座として分類されますが、3月でもまだ夜の早い時間帯であれば、十分観察することができます。この天体は、星雲の中でも**惑星状星雲**に分類され、望遠鏡で観察すると丸くぼんやりとした白っぽい雲のように見えます。星雲の微妙な濃淡がまるで、北極圏の原住民の人達がかぶるフードのようにも見えるので「エスキモー星雲」という愛称で呼ばれています。星雲の中心部にはポツンと一つの星があり、この星から放出されたガスが星雲を形成しています。中心星は寿命が尽きかけた状態で、最終的には地球サイズまで小さくなり、星の燃えカスともいべき**白色矮星**に進化していくと考えられています。

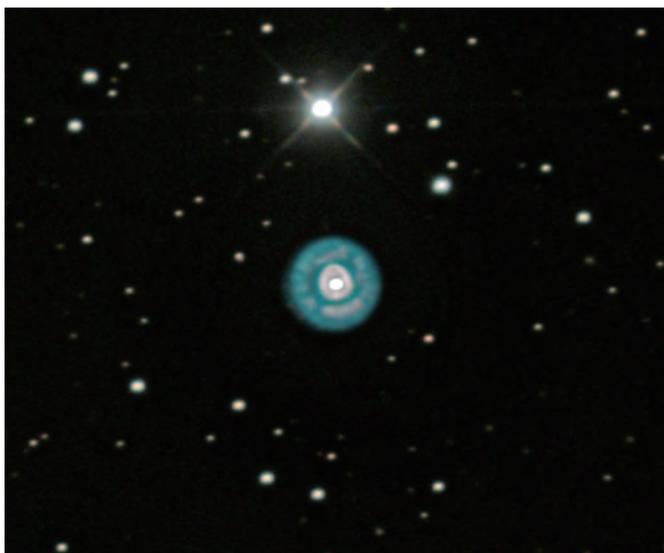


図1：四国最大の望遠鏡で撮影した「エスキモー星雲」
(2021年2月6日撮影 / by K. Imamura).

【白色矮星“シリウスB”が見頃】

全天で最も明るい恒星おおいぬ座のシリウス（約-1.5等）も冬場に見やすい天体ですが、3月頃であればまだ観察することができます。実はこの星は**実視連星**と呼ばれるタイプの天体で（軌道周期約50年）、望遠鏡を使えば図2のように約8等で輝く伴星**シリウスB**の姿を見ることができます。しかもシリウスBの正体は左記で触れた**白色矮星**そのものだったりします。筆者の計算によれば、シリウスBは2021～2024年の期間、主星から最も離れた状態で見え（角距離11.3秒角）、まさに見頃を迎えています。しかし、望遠鏡を覗けばいつでも見えるわけではありません。明暗差が大きいことに加え、大気の状態が安定していないと星像が揺らいで乱れるため、観察には一定の条件を満たす必要があります。運が良ければ、観望会中にも見えますので、ご興味のある方は「シリウスBは見えますか？」と職員に尋ねてみてください。



図2：四国最大の望遠鏡で撮影した「シリウスB」の姿
(2021年1月31日撮影 / by K. Imamura).